

熊本県立熊本西高等学校 平成27年度学校評価表

1 学校教育目標
校訓 <b>清・明・和</b> （「清」とは規律・秩序を表す。「明」とは自由・創造を表す。「和」とは調和・奉仕を表す。）の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
<p>&lt;めざす生徒像&gt;</p> <p style="text-align: center;">“高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒” ～個性を生かし、自己の思い描く未来の実現に向かって 果敢に挑戦する意志と情熱を持って、前向きに努力を継続しよう～</p> <p>&lt;具体的取組重点事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力の向上                      ・ ・ ・ 魅力的な授業創造と進路保障のための学力向上を推進する</li> <li>2 基本的生活習慣の確立と生徒指導の徹底                      ・ ・ ・ 基本的生活習慣を出発点とする 稚心を去り、大人への脱皮</li> <li>3 個に応じた個を大切にしたい指導の徹底                      ・ ・ ・ 生徒理解を深める</li> <li>4 進路意識の高揚                      ・ ・ ・ 行ける進路から行きたい進路実現を実現する 目標（夢）達成に向けた計画作成</li> <li>5 部活動の充実                      ・ ・ ・ 人間力を高める</li> </ol>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と土曜日授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日体験入学、西高公開の日、西高説明会の内容充実</li> <li>・ 広報誌の内容充実</li> <li>・ 学校HPの随時更新（更新回数100回以上）</li> <li>・ 土曜日授業活用による保護者や地域との交流や行事等の開放</li> <li>・ 学校評議員会の年間2回実施（学校評価や本校取組の検証）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れ内容を充実させる。</li> <li>・ 担当部署が中心となり、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む。</li> <li>・ 可能な限り、生徒（会）主体を目指し、生徒が活躍する場を設定する。</li> <li>・ 花陵中学校と授業参観や情報交換会を学期に数回実施する。</li> </ul>	A	一日体験入学は、実施期日、参加者数が減少した点など課題が残るので、本校の魅力を十分に発信できるように、取組の内容等にさらに検討を加えていく。土曜日授業活用による保護者や地域との交流・行事等の開放については、講演に保護者や地域の方々にご参加いただいた。今後も広報活動に力を入れていく必要がある。広報誌については、来年度担当者の拡充を含め、更に充実させていく必要がある。学校HPの更新回数は今年度中に100回を超える予定。計画的な更新をしていきたい。
	スクールアイデンティティの確立	生徒・保護者・地域が求める西高づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特進クラスを中心とした高大連携事業、小・中・高連携事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各中学校の訪問担当者を決め定期的に訪問し、交流を深める。</li> </ul>	B	熊本県立大学との高大連携事業では、特進クラスの2年生が定期的に大学生に直接論文指導を受けるなど積極的な交流ができた。城山小学校の「ふれあい教室」では本校生が小学生を積極的に指導し好評だった。このような異年齢集団との交流の機会を充実させる必要がある。

	中高交流	西部地区の拠点校としての取組推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や情報交換会の実施</li> <li>・生徒の交流</li> </ul>		A	相互の授業参観、毎月の情報交換会が積極的に実施できた。体育、英語の授業支援、部活動の交流、更には成果報告会も実施でき、大きな成果をあげている。
学力向上	授業力の向上	「西高で目指す授業」を念頭に置いた教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・公開授業の充実（相互授業見学200件以上）</li> <li>・生徒による授業評価の実施と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西高で目指す授業」の全職員による取組</li> <li>・研究授業及び合評会の充実、授業見学レポートの活用</li> <li>・生徒による授業評価結果を個々の職員で活用し、授業改善及び授業力向上に努める。</li> </ul>	B	年度当初に「西高で目指す授業」を設定し、1、2学期の研究授業旬間で全教科が研究授業・合評会を実施した。授業見学レポートの活用や日々の授業改善という点ではまだ十分とは言えないので、継続した取組が必要である。生徒による授業評価については、教科ごと及び個人の評価結果を配付し、授業力向上に繋げているところである。さらに職員が活用しやすいものに工夫していきたい。
	自学力の育成	宅習時間の確保	平日2時間（1、2年）、3時間（3年）確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅習時間調査の年3回実施と活用</li> <li>・セルフチェックノートの活用</li> <li>・教科課題の工夫、チェックの徹底</li> </ul>	B	宅習時間調査を学期ごとに行っている。結果（11月実施分）は、1年84分、2年63分、3年71分であり、目標の半分ほどである。家庭学習は本校の大きな課題であるので、授業改善や各教科の課題の工夫と合わせて、取組の充実と継続が必要である。
キャリア教育（進路指導）	学力の充実	対外模試の偏差値	以下の偏差値平均を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年は国45以上、数45以上、英語43以上</li> <li>・3年は国・数・英43以上 理・地歴公民は45以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西高で目指す授業」に向け、全職員で取り組みながら生徒のやる気を引き出すことで学力の充実を図る。</li> <li>・職員研修の充実</li> </ul>	C	全学年目標に届かない。策は講じているが、生徒のやる気を引き出すまでに至ってない。模試後の検討会等も行い、学力向上を図っているが、具体的に継続して行える方策を見つける必要がある。職員研修は好評を得ているがそれが結果につながっていない。
	一人一人の進路目標達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実績</li> <li>・進路意識の涵養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度を上回る進路実績を上げる。（国公立大合格者35人）</li> <li>・夢や目標を与える取組の実施</li> <li>・インターンシップの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談、面談の充実</li> <li>・個別指導・面接指導・学力検討会の充実</li> <li>・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施</li> <li>・生徒の適性等を考慮したインターンシップの実施、受入先開拓</li> </ul>	B	面談や個別指導は例年より細やかに実施したが、進路実績に結びついていない。進路意識の涵養については、学校を挙げて取り組んでいる。意識もあるが、それが家庭学習までにいきついてない。生徒が夢を持ち目標を持って努力しようと思うような講演会を実施する必要がある。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間厳守</li> <li>・爽やかなあいさつ</li> <li>・正しい着こなし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の遅刻者数3.0人(昨年度3.6人)</li> <li>・生徒対象アンケートの挨拶・時間厳守・服装の項目平均3.2以上(満点4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による毎朝の遅刻指導</li> <li>・地域と連携した挨拶推進運動、職員からの率先した挨拶励行</li> <li>・機を逃さない服装指導</li> <li>・生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援</li> </ul>	A	遅刻者数は2学期末時点で1日平均1.6人で大幅な改善が見られた。生徒対象アンケートの挨拶や服装等の項目の評価平均は3.1。目標をわずかだが下回った。また、生徒会による挨拶や交通指導については取組を十分に認知してもらえていない状況がある。目標数値はほぼ達成できているが、全職員が一枚岩となった指導という点では、課題が残る。
	能動的言動の育成	<p>各行事における生徒の自主性の育成</p> <p>高い志及び目標を持った高校生活実現の支援(プラスワンの指導)</p>	<p>生徒が主体となった行事の企画・運営</p> <p>全生徒が目標を持った、張りのある毎日を送る。(生徒対象アンケート項目平均3.0以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等において可能な限り、職員主体から生徒主体への移行を図る。</li> <li>・夢や目標を与える講演会等の実施</li> <li>・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援</li> </ul>	B	生徒対象アンケート「生徒会の主体性」、「張りのある生活」の項目の平均は、それぞれ、3.0、2.9であった。目標数値の達成度以上に、生徒会主体の取組の充実を求める声は多い。実際にさせてみる中で、「できる力」を伸ばしていきたい。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	生徒対象アンケートの美化・省エネの項目平均3.0以上(満点4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による掃除指導の徹底</li> <li>・細めな消灯・節電・節水</li> </ul>	B	生徒対象のアンケート「美化・省エネ」の項目の平均は2.9。昨年度(2.8)からの上昇は見られるものの、意識の低い生徒がいることも事実である。掃除や省エネの指導については、職員の意識を高める必要がある。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権や命の問題についての知識や考察を深める講話の実施</li> </ul>	A	人権教育の確立のための校内研修は充実してきており、評価も大幅に高くなった。
	命を大切に する心の育成	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象アンケートの「命を大切に する心の育成の充実」の項目平均3.5以上(満点4)</li> <li>・西高チャレンジウォークやボランティア活動等の体験活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を大切に する心を育む指導」プログラムの策定</li> <li>・教科指導において生命の大切さについて指導を2学期までに1つ以上実施(授業内容や授業方法等)、教科指導のない職員は校務分掌等で取り組む。</li> <li>・生徒会による取組への指導・支援</li> </ul>	A	昨年に比べ、評価は高まっている。生徒の主体的な活動も、体育大会や創立記念祭、西高チャレンジウォーク、ボランティア活動、生徒会活動等において、自主性を尊重しながら支援している。生徒達自身も他者を思いやり、地域の方々との連携を考えた行動ができるようになってきている。授業やHR等においても、命の大切さについての指導を随時行っている。

いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ解消率100%</li> <li>・生徒会による取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応に努める。</li> <li>・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用</li> <li>・生徒会による取組への指導・支援</li> </ul>	A	<p>昨年に比べ、評価は高まっている。対応も早かった。一方で生徒（会）が発信する、いじめ防止の取組に課題が残った。心のアンケートでは、いじめ解消率100%とはならなかったのが残念であり、次年度以降の課題となった。</p>
理数科教育	理数科教育の充実	<p>進路実績</p> <hr/> <p>理数科のPR充実</p>	<p>課題研究や高大連携事業を充実させ、生徒の進路意識を高める。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高連携の取組充実</li> <li>・定員確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や研究の発表スキル向上</li> <li>・実習の事前・事後指導の充実、中間まとめの実施</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理数科体験プログラム、の実施</li> <li>・学校説明会やHPの活用、理数科便りの発行</li> <li>・対外的な発表会への積極的な参加とPR</li> </ul>	B	<p>課題研究への導入の工夫などを行い、研究の深化を目指した改革をスタートさせることはできたが、まだまだ改善への途上である。課題研究等での発表スキルの向上については、課題が残る。理数科体験プログラムの着実な実施や学校説明会で、直接中学生に呼びかける機会を増やすことができた。今後、高大連携で行っている科学イベントへの協力を本校独自の活動にするなど、理数科の見える活動をより充実させていく計画である。</p>

## 4 学校関係者評価

### 【評価項目や評価結果について】

- 学校教育目標はこれまでの学校の歴史と伝統を表す不易のものであり、その実現に向けてプラスワンの視点を取り入れた教育実践を行ってほしい。
- 校訓「清・明・和」をもとに、知・徳・体の文武両道を目指す教育は素晴らしい目標である。世界的視野に立った人材の育成も素晴らしい。
- 清・明・和の校訓は、卒業後、社会人になってからも人生に必要不可欠な要素である。この精神が、高校時代に身につくことは後々必ず役に立つであろう。
- 評価項目については、具体的目標を設けて、具体的方策を取り入れてあり、成果と課題も示されているのでわかりやすい。評価を継続することで更に学校活性化が図れるだろう。
- 生徒、保護者、職員からのアンケート収集及び生徒による授業評価の実施は、評価を行う際の重要な資料である。また、保護者からのアンケート回収率が100%に近かったことはすばらしい。
- 生徒の評価の低かった項目については、取組状況を分析する必要がある。学年毎の経年比較やクロス集計をする等、今後の課題改善に生かす取組を充実させてほしい。
- 学校経営や学力向上、進路指導、生徒指導など、かなり努力されている。即効性のある取組だけでなく中、長期的な取組も視野に入れながら「西高に入学してよかった」と思えるような教育実践の充実に努めてほしい。
- 生徒たちの自主性面では若干の不足が見られる。生徒が主体となった行事の企画・運営や夢を与える講演会等を実施するなど、生徒の自主性を引き出す取組の充実に努めてほしい。

### 【各項目について】

#### ①学校経営

- 開かれた学校づくりとして一日体験入学、西高公開の日、広報誌、HPの更新や高大連携、小中連携と数多く充実した取組がなされている。
- 今年度から、人事交流を含めた中高交流事業を実施しており、相互の授業参観、体育、英語の授業支援等、大きな成果をあげている。今後も中学校への訪問を通し交流を深めると同時に西高の魅力をアピールしてほしい。

#### ②学力向上

- 生徒による授業評価結果を個々の職員で活用し、授業改善に努めているが、分かる授業の実践を求め、更なる授業力向上に努めてほしい。
- 「西高で目指す授業」「宅習時間」「セルフチェックノート」等、先生方の努力が見られる。この取組が学力向上に結びつくよう生徒への働きかけの充実に努めてほしい。
- 宅習時間の確保については、残念ながら毎年の課題となっている。家庭学習の重要性を生徒に自覚させることが必要だと思う。
- 学力向上については、熊本市西部の重要課題である。熊本市西部の教育水準向上への改革が必要だと思う。

#### ③キャリア教育

- 普通科を核とする高校であれば、自ずとその役割が明らかであると思う。
- 生徒の進路選択の可能性が広がれば広がる程、成果が上がっていると言えるのではないか。
- 昨年度を上回る進路実績を上げる等、具体的に数字に示されて良い。
- 進路の実績が西高の評価に大きく影響する。現在もキャリア教育の推進や進路意識の涵養に取り組んでいるが、継続して取り組んでほしい。
- 国公立をはじめとした大学合格者増を目指し、取り組んでいただきたい。

#### ④生徒指導

- 遅刻者数の激減等、基本的な生活習慣の確立に向けた日常指導の成果が生徒の意識の中に定着している。
- 基本的な生活習慣の確立、能動的言動の育成、美化意識の高揚等、評価からその努力がうかがえる。
- 遅刻者の減少と皆勤者の増加の取り組みを続けてほしい。

#### ⑤人権教育の推進

- 教職員組織の意識向上と保護者・生徒の評価とが相関関係あり、成果が見られる。
- 「職員研修」が充実しているようで良い。今後も継続して研修に取り組んでほしい。

○「命を大切にすする心の育成」について、生徒の評価アンケートも向上している。体育大会や創立記念祭、西高チャレンジウォークやボランティア活動等を通じて指導が充実しているからだと思う。

#### ⑥いじめの防止等

○事案が皆無ではないと思われるが、事前防止や早期解消、いじめ解消率100%をめざして指導を継続してほしい。

○いじめの防止等についての生徒評価は高評価である。本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用が十分なされている結果であろう。

○本校のいじめ防止基本方針が決められていることが良い。

#### ⑦理数科教育

○理数科体験プログラムの実施や学校説明会で、中学生に呼びかける機会を増やすことができたが、中学生への理数科の浸透は課題が残る。

○高大連携、中高連携等、様々な工夫がなされており、これから更に工夫改善して生徒募集に繋げてほしい。

○中学校へのPRを継続してほしい。

#### 【その他】

○評価結果から西高の教育成果は「知・徳・体」の特に「徳・体」の部分に表れている。社会に出てからとても大切な側面である。知の部分である学力向上等については、最重要課題であろう。今後の取組について、更なる充実及び改善を図っていく必要がある。

○出席率の向上、「しあわせ」の実践を基に基本的な生活習慣の確立、交通マナー、美化意識等、高い評価が見られる。生徒それぞれの個性を活かす進路指導の充実も図られており、今後が期待できる。

○学校行事等、生徒主体で行われている。これからも西高の伝統を引き継ぎ、さらなる生徒の活躍を期待する。

## 5 総合評価

今年度は、花陵中学校との人事交流を含めた中高交流事業を実施し、西部地区の拠点校としての取組を推進した。評価項目に付いては、中高交流を追加し、目指す生徒像「高い志を持ち、夢実現に向かって輝く生徒」の達成に向けて全職員で取り組んだ。全体評価としては、14項目のうち6項目がA評価、7項目がB、1項目がCとなっており、概ね目標達成ができた判断している。個別の項目では、「基本的な生活習慣の確立」、「命を大切にすする心の育成」及び「人権意識の育成」が昨年度よりも評価が向上した。校務改革の一つとして朝会を火・金の週2回に削減し、月・水・木は担任が教室で生徒と向き合う時間を確保したことや本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用の充実が図れたことが高い評価に繋がっていると考えられる。唯一評価がCであった「学力の充実」については、学校評議員からの助言にもあるように、分かる授業の実践や宅習時間の確保に結びつける教科指導等への取組を更に充実させていく必要がある。

## 6 次年度への課題・改善方策

○学校評価全体としては、「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の育成を目指し、本年度の成果と課題をしっかりと検証したうえで、プラスワンの精神を盛り込みながら、目標達成に向けて取り組んでいきたい。

○「自学力の育成」及び「学力の充実」は本校の大きな課題である。毎日の授業が一番大切であるという基本を再確認して、「西高で目指す授業」を念頭に置いた、生徒の興味・関心を高める授業実践に向けて組織的に取り組んでいきたい。

○「開かれた学校づくり」及び「中高交流事業」については高い評価である。土曜授業の活用、情報発信の充実、更には小・中学校及び保護者・地域との連携強化を図り、西部地区の拠点校としての取組を更に推進していきたい。

○「人権教育の推進」及び「いじめの防止等」については、職員研修や本校独自の「こころのアンケート」を更に充実させながら、いじめの事前防止や早期解消、いじめ解消率100%をめざして、取り組んでいきたい。

○理数科教育については、今年度、各種の表彰を受けたり、科学イベントへの協力を実施するなど成果を上げている。次年度も、取組内容や情報発信方法等について工夫し、理数科の見える活動をより充実させていきたい。